

令和5年度 遠野東中学校区の取組の方針→総括（概要版）

遠野東中学校区研究員部会

1 「まちづくり指標」達成に向けて 本学区で特に課題（重点）とする【大領域・観点別】（中領域）

国語	小2	【読むこと】（重要な語や人物の行動をとらえる）
	小3	【読むこと】（話の内容の大体をとらえる）
	小4	【読むこと】（詳細を読み取って解釈する）
	小5	【読むこと】（考えや感想をもって伝え合う）
	小6	【読むこと】（要点をとらえ内容を解釈する）（考えや感想をもって伝え合う）
	中1	【書くこと】（送り仮名を含む漢字の書き）
	中2	【読むこと・聞くこと】（敬語を正しく使い話す）
	中3	【読むこと】（感想や考えをまとめ伝え合う）
算数・数学	小2	【測定・データの活用】（長さ、広さ、かさ）（時刻の読み方）
	小3	【数と計算】（かけ算） 【測定・データの活用】（時間の単位）
	小4	【数と計算】（口を用いた式、分数） 【測定・データの活用】（長さ、重さ、時刻、時間）
	小5	【数と計算】（かっこ用いた式、分数） 【変化と関係】（割合）
	小6	【数と計算】（整数の性質） 【データの活用】（円グラフや帯グラフ）
	中1	【関数】（比、百分率、速さ）（比例と反比例）
	中2	【数と式】（小学校での計算）（方程式）
	中3	【数と式】（中学1年までの計算）
理科	小6	（振り子の動きとそのきまり）
	中1	【エネルギー】（てこの規則性）（振り子の運動）
	中2	【いろいろな生物とその共通点】（生物の観察）
	中3	【気象とその変化】（日本のきょうう） 【化学変化と原子・分子】（物質の成り立ち）
社会	小6	（日本の地形や気候・災害）
	中1	【歴史的分野】（明治から昭和時代の出来事と人物）（貴族の世の中）（武士の世の中）
	中2	【世界の様々な地域】（世界地理総合）
	中3	【近代の日本】（欧米の進出と日本への影響）
英語	中2	【読むこと】（長文の概要や要点を読み取る）
	中3	【読むこと】（英文を正しく読み取る） 【書くこと】（適切な表現を用いて英語を書く）

2 前年度の「成果（○）と課題（●）」

- ゴールや見通しを示すことにより、児童生徒が意欲を持続して学びに向かうことができた。
- 児童生徒が自分の考えを持ち、考えを交流する場において視点がはっきりした学び合いをすることにより、主体的に学ぶことができた。
- 「のだから」学習に取り組ませることにより、学習意欲が授業から家庭学習にまで持続することにつながった。
- 「ゴール」は、始めに提示するだけでなく、途中で確認しながら、意欲の持続につなげていく必要がある。
- 授業での学びと家庭学習の関連、補充と発展を考慮した「個別最適」な学習の充実。

3 今年度学力向上取組の方向性

(1) 授業改善の2つの視点と目指す授業像（児童生徒像）について

目指す授業像：児童生徒が課題を解決したい、分かるようになりたいという思いを持続させながら、自分の考えを広げたり深めたりしながら主体的に学ぶ授業

視点1 「学習意欲の持続」

視点2 「児童生徒が主体の学び合い」

目指す児童生徒像

目指す児童生徒像	視点1「学習意欲の持続」	視点2「児童生徒が主体的な学び合い」
中学生	「自分の目標を達成するためにこの力をつけたい」という思いを持ち続け、自分や友達の考えを比較したり、深めたりしながら学習する。	自ら課題を見つけ、自分たちの思考を補充、深化させながら、全員で学び合う。
小 高学年	「自分の考えや友達の考えを合わせて課題を解決したい、分かるようになりたい」という思いを持ち続け、自分や友達の考えを比較したり、合わせたりしながら課題解決に向けて粘り強く学習する。	課題解決に向かって、自分たちの思考を交流しながら、全員で学び合う。
小 中学年	「前の時間に悩んだところをできるようになりたい、新しいことができるようになりたい」という思いを持ち続け、自分の考えを話したり、友達の考えや教師の話の聞いたりして分かるようになるまで学習しようとする。	自分の考えを自分の言葉で話し、教師に補ってもらいながら全員で学び合う。
小 低学年	「自分の力でできるようになりたい」という思いを持ち続け、話をよく聞いて学習する。	自分の考えを持ち、教師と一緒に学ぶ。
特別支援学級	「最後まで取り組む」という思いを持ち続け、自分にできることを最後まであきらめないで学習する。	自分ができることを表現し、教師と一緒に学ぶ。

(2) 今年度の重点取組

① 「視点1」について (手立て)

- ア 新しい学習に興味関心を持って意欲的に学習できるように、単元や単位時間の導入時に学習のゴールを提示する。
- イ 単位時間において、「自分の力で解決できそうだ」と安心して学習できるように、解決の見通しとなる見方・考え方を提示する。

② 「視点2」について

- ア 考えとその根拠を持って学び合うことができるように、ノートやタブレットに言葉や文章で書き表す時間を設定する。
- イ 児童生徒が安心して学び合いに参加し、課題を解決することができるように、「何について学び合うのか」の視点を示す。

③ 「UAをゼロに」について

- ア 中学校区で足並みをそろえた「根拠を明らかにした家庭学習(のだから勉強)」に取り組ませる。
- イ 個別最適化された課題に取り組ませるために、アシストシートや家庭学習を個別に与える。
- ウ 校内や関係機関と連動した組織的な指導をする。(実態に応じた複数指導、少人数指導、放課後教室の活用など)

④ 「学びの連続性」について

- ア 4校共通で、根拠を持たせた家庭学習(のだから勉強)に取り組ませることで、授業と家庭学習の連携を図るとともに、小中9年間の自主学習を連続させていく。

4 具体的実践(授業交流会・授業実践交流会・校内研究会等について)

(1) 今年度の主な公開授業等

- ① 第1回授業交流会 (R05.06.01) 遠野東中学校
- ② 第2回授業交流会 (R05.09.05) 青笹小学校

ここから下については、これからの実践や調査をもとに加筆していきます。

(2) 実践をとおして明らかになったこと

① **視点1** 「学習意欲の持続」について（手立ての検証）

- ア 新しい学習に興味関心を持って意欲的に学習できるように、単元や単位時間の導入時に学習のゴールを提示する。
- 教科の学習と日常生活や身近なものに関連付けることで、学ぶ必要性を実感することができ、学習意欲につなげることができる。
 - 学習のゴールを提示する際に、児童生徒の思いや考えを引き出すことが意欲の持続につながる。
 - 単元や単位時間のゴールのイメージを視聴覚教材、掲示物、板書など視覚で捉えることで、自分自身のゴールの姿を具体的にイメージすることができ、意欲喚起につながる。
 - 単元の学習を通して身につけさせたい資質・能力を明確にし、単位時間のゴールがその資質・能力の育成につながるものとなっているか、単元構想を練る。
 - 学習課題が児童生徒の実態に合っていないと、学習意欲の低下につながるので、「考えてみたい」「できるようになりたい」と思えるような単元や単位時間のゴールの設定を行う。
 - 単元や単位時間における学習のゴールを提示するタイミングを、児童生徒の思考の流れに沿ったものとなるようにする。
- イ 単位時間において、「自分の力で解決できそうだ」と安心して学習できるように、解決の見通しとなる見方・考え方を提示する。
- 事前アンケートやレディネスなどから児童生徒の実態を把握することが、課題解決に向けてスムーズステップで見方・考え方を提示することにつながる。
 - 課題解決のための方途を、アイテムツールを用い単元を通して繰り返し確認して課題を解決することで、児童生徒自身が課題を解決するためには何をすればよいか気づくことができるようになり、学習意欲の向上や学習方法の獲得につながる。
 - 思考力・判断力・表現力を育成することをねらいとした単位時間では、見方・考え方の提示の仕方を検討する。

② **視点2** 「児童生徒が主体の学び合い」について（手立ての検証）

- ア 考えとその根拠を持って学び合うことができるように、ノートやタブレットに言葉や文章で書き表す時間を設定する。
- 自分の考えやその根拠を言葉や文章で書き表すことで、友達の考えを聞く場面において、共通点や類似点、相違点を確認しながら自分の考えを深めることができる。
 - ICTの強みを活かし、画像や動画を使用することで自分の考えを伝えるときに、根拠となる部分を指し示しながら学び合うことができる。
 - 児童生徒一人一人が、自分の言葉で思ったことや感じたことを表現するための語彙や主述など伝え方を伸ばす指導も必要。
- イ 児童生徒が安心して学び合いに参加し、課題を解決することができるように、「何について学び合うのか」の視点を示す。
- 学び合いの視点を口頭だけではなく、視覚でも確認できるように示すことで、学び合いの途中にも視点を確認することができる。課題解決に向けて、自分の考える方向性が間違っていないか確かめることができるため、安心して学び合いに参加することができる。
 - 学習形態を工夫し、学び合う場面を設けることで、児童生徒同士で自力解決のヒントを得ることができる。
 - 課題と連動した学び合いの視点を示したことで、主体的な学び合いが増えた。
 - 発達段階等に応じて、課題を解決するためにはどんな視点が有効なのか検討が必要。

③ 「UAをゼロに！」について

- ア 中学校区で足並みをそろえた「根拠を明らかにした家庭学習（のだから勉強）」に取り組ませる。
- 昨年に引き続き、「根拠を明らかにした家庭学習（のだから勉強）」に各校の実態に応じた形で目的をもたせて取り組ませている。
 - 取組状況には個人差が見られ、年数とともに形骸化が見られる。
- イ 個別最適化された課題に取り組ませるために、アシストシートや家庭学習を個別に与える。
- 長期休業中の課題としてアシストシートやタブレット端末を活用し、一人一人に応じた個別の課題に取り組み、補強する機会とした。
 - 「わかる・できる」ようになるための活用となるよう、事前・事後指導の充実を図る。
 - 個別学習のためのプリント作成等の準備に時間を要する。
- ウ 校内や関係機関と連動した組織的な指導をする。（実態に応じた複数指導、少人数指導、放課後教室の活用など）
- 小学校では未来づくりサポート室と連動した「放課後学習教室」による学習支援がスタートし、個別の補足的な学習支援ができた。
 - 補充指導を朝学習やT T指導など校内体制で行うことができた。

④ 「学びの連続性」について

- ア 4校共通で、根拠を持たせた家庭学習（のだから勉強）に取り組ませることで、授業と家庭学習の連携を図るとともに、小中9年間の自主学習を連続させていく。
- 学区共通で取り組んでいることから、特に中学校1年生が戸惑うことなく取り組むことができています。
 - 家庭学習の意義を確認し、発達段階に応じた内容の充実と習慣化を目指したい。

(3) 実践を通して各校で育成された（育成が難しかった）資質・能力と手立てについて

- 視点1・視点2に取り組むことで、単元で身に付けたい資質・能力の育成につながっていると考えます。
- 資質・能力が身に付いたかどうか、単元・学期・年間で検証していく必要があると思うが、その検証方法については検討する必要がある。

5 諸調査結果等の結果考察（児童生徒及び授業者の変容）

(1) 児童生徒が主体となる授業改善に関する指標（岩手県学習定着度状況調査における肯定的回答）

【考察】

- ①②から、児童生徒は学習意欲が高く、学び合いの中で自分の考えを広げ深めていることが分かる。これは視点1、視点2に基づく授業実践が行われた成果と考える。
- ③の授業の理解度については中学校で目標値に達していない。意欲的に取り組み、集団の中で学び合いを行っているが、個人の「できた」「わかった」につながっていないことが課題である。
- ④から、学校ではつまずきをそのままにせず分かるまで教えていることに気づいている児童生徒が多くいる一方で、⑤では、自ら弱点を克服しようとしていない現状がわかる。特に中学校の現状に課題が見られる。家庭学習への意欲付け、学習計画の立て方、家庭と連携したメディアとの関わり方について更に取り組んでいく必要がある。

指 標		目標値	R 5	R 3	R 4	R 5
			本市	学区	学区	学区
① 意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合	小	84.9	81	89	91	96
	中	81.2	85	84	88	85
② 授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合	小	84.7	85	79	86	98
	中	84.0	87	87	96	90
③ 学校の授業がよく分かる児童生徒の割合	小	94.0	88	87	89	94
	中	81.0	78	71	88	77
④ つまずきに対応した授業改善が行われていると感じている児童生徒の割合	小	89.0	87	99	96	100
	中	92.0	93	97	100	94

⑤ 学校の宿題だけでなく、家庭において自主学習に取り組んでいる児童生徒の割合	小	70.0	75	—	—	85
	中	65.0	50	—	—	29

※ この「学区」は、本中学校区の数値

(2) 学校の組織的な取組に関する指標（岩手県学習定着度状況調査における「1番回答」の割合）

【考察】

○「確かな学力育成プラン」に基づき、児童生徒のつまずきに着目した授業改善を行っている。

●児童生徒に身につけさせたい資質・能力が身についたかどうか協議し、共通理解を図り、授業改善につなげていくことに課題が見られる。

指 標		目標値	R 5 本市	R 3 学区	R 4 学区	R 5 学区
①児童生徒の資質・能力の向上に向けて、「確かな学力育成プラン」に基づいて組織的に取り組んでいますか。	小 中	100	86	—	—	100
②授業研究会では、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力について協議を行っていますか。	小 中	100	71	—	—	50
③教育課程全体で「話すこと」、「書くこと」等の言語活動の指導の充実及び徹底を図っていますか。	小 中	100	50	—	—	50
④調査結果や日々の授業から明らかになった児童生徒のつまずきに着目した授業改善を行っていますか。	小 中	100	64	—	50	75
⑤学校の宿題などに加え、補充のための学習や発展的な問題に、生徒が自ら取り組める工夫をしていますか。	小 中	100	50	—	25	50

※ この「学区」は、本中学校区の数値

(3) 学校区のアンケート等

【考察】

・昨年度からの推移を見た結果、昨年度から若干の減少があったものの、変化はあまり見られなかった。

2回目の調査を行い、意識の変容を確認する。

・今年度新たに資質・能力の育成に関する調査項目を追加した。調査項目6の学習の成果と関連付けながら、検証していく。

《令和5年度 東中学校区教職員意識調査》

項 目		R4.6	R4.11	R5.9
自分が指導している子ども達の様子は？	1 学習課題に意欲を持って自ら学ぼうとする姿が見られますか。	3.4 (-0.1)	3.6 (+0.5)	3.4 (-0.2)
	2 振り返りで、学習課題を解決できたという実感「できた」「わかった」という姿が見られますか。	3.2 (-0.1)	3.3 (+0.1)	3.4 (+0.1)
	3 学び合いで、自分の考えを広めたり、友達の考えを聞いて深めたりしている姿が見られますか。	3.1 (-0.1)	3.4 (+0.3)	3.3 (-0.1)
	4 学び合いで、つまずきのある子が意欲的に参加する姿が見られますか。	2.8 (-0.4)	3 (+0.2)	3
自分の授業改善の取組を振り返ると？	5 子ども達が、自分で調べたことや考えたことを、分かりやすく文章に書く指導をしていますか。	3 (-0.2)	3.3 (+0.3)	3.1 (-0.2)
	6 子ども達が、学習の成果（または課題）を実感できる振り返りとなっていますか。	3.2 (-0.1)	3.3 (+0.1)	3 (-0.3)
	7 子ども達の間違いを認める雰囲気を作り、その中で授業を進めていますか。	3.5 (-0.1)	3.8 (+0.3)	3.7 (-0.1)
	8 諸調査の自校の分析結果から見えた子ども達のつまずきに対応した授業改善を行っていますか。	3.1 (-0.1)	3.3 (+0.2)	3.2 (-0.1)
	9 学校全体で育成を目指す資質・能力を意識して、単元構想や指導計画を立てていますか。	—	—	3.2

6 成果（○）と課題（●）

- 日常生活との関連、疑問・感想等から学習課題を設定することは、課題を自分事として捉えることができ、児童生徒の学習意欲の持続につながる。
- 自分の考えやその根拠を書き、課題解決の視点を確認しながら学び合いを行うことで、共通点や類似点、相違点を確認しながら自分の考えを深めることができる。
- 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通すことで、単元の最後になにができるようになればよいのか、そのためにこの時間は何ができるようになればよいのか具体的にイメージしながら学習に取り組むことができる。
- 「各校で育成を目指す資質・能力」、「視点1」・「視点2」、「手立て」の関連が図られるよう整理する。
- 学び合いを活性化させるために、自分の考えを表現する際に必要となる言語能力の育成や言語活動などにも目を向ける必要がある。

7 次年度学力向上取組の方向性

(1) 育成を目指す資質・能力（学区で、あるいは各校で）

土淵小学校	青笹小学校	上郷小学校	遠野東中学校
学習への見方・考え方を働かせて能動的に学び合う力	自ら考え、表現できる力	学習意欲をもって学び続ける力	基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と活用する力
分かった喜び、できた楽しさを感じるために能動的に学ぼうとする力		学習や生活の課題を解決する力	課題に粘り強く取り組む力

(2) 授業改善の2つの視点と目指す授業像について

視点1 「できた・わかったを実感させるための導入・終末の工夫」

目指す授業像：単位時間や単元の最後に生徒が「できた」「わかった」を実感できるような終末とその終末に向けた導入を設定した授業

視点2 「できた・わかったにつなげるための学び合いの工夫」

目指す授業像：単位時間や単元の最後に生徒が「できた」「わかった」という達成感や有用感を感じるような学び合いを行う授業

(3) 次年度の重点取組

① 「視点1」について（手立て）

- ア 何ができれば・わかればよいかが見通せるように、単元や単位時間の学習のゴールを児童生徒と共有する。
- イ 学んだことを自覚できる終末での活動を設定する。

② 「視点2」について（手立て）

- ア 考えとその根拠をもつことができるように工夫する。（教材教具、具体物、ICT、ワークシートなど）
- イ 児童生徒が主体となって学び合いができるようにコーディネートする。（視点、発問、形態、時間など）

③ 「UAをゼロに！」について

- ア 中学校区で足並みをそろえた「根拠を明らかにした家庭学習（のだから勉強）」に取り組ませる。
- イ 個別最適化された課題に取り組ませるために、アシストシートや家庭学習を個別に与える。
- ウ 校内や関係機関と連動した組織的な指導をする。（実態に応じた複数指導、少人数指導、放課後教室の活用など）

④ 「学びの連続性」について

- ア 4校共通で、根拠を持たせた家庭学習（のだから勉強）に取り組ませることで、授業と家庭学習の連携を図るとともに、小中9年間の自主学習を連続させていく。